平成23年1月31日

山梨日日新聞

地域資源 活用策探る

富士川でシンポ 産学官の連携を

県立大講座

山梨県立大（伊藤洋学長）と富士川町教委は29日、富士川町民会館で、地域資源の活用策に関するシンポジウムを開いた。街づくりや教育分野などへの市民参加を促す「新しい公共」や、産学官の連携策について意見を交わした。

テーマは「新しい公共を模索する～峡南地域の展望～」。NPO法人富士川・夢・未来の長沢利久理事長がコーディネーターを務めた。伊藤学長のほか、やまなし観光推進機構の野田金男理事長、同町青柳町の昌福寺の岩間湛教住職がパネリストとして参加した。

伊藤学長は農業や林業従事者が企業などと連携し、農産物の加工、販売を行う「6次産業化」の必要性を指摘。野田理事長は「住民が地域に愛着を持つことが観光振興につながる」と説明。峡南地域に森林資源が豊富であることを踏まえ、林業の再生も訴えた。

地域資源の活用策などについて協議したシンポジウム＝富士川町民会館

岩間住職は寺主催の催しなどを例に挙げ、人間同士が助け合うことの重要性を訴えた。

また、基調講演として、長沢理事長が「新しい公共」の概要について説明した。

シンポジウムは同大と町が進めている「県立大学講座 2010」の一環で、年間全8回の講座の最終回。